（様式２）

| 校　種 | 小　・　(中)<br>どちらかに○ | 学校番号 | 2 | 学校名 | 宇都宮市立　陽北中学校 |
|---|---|---|---|---|---|

## 令和８年度　学習指導に関する取組

### １　学習指導上の主な実態

（１）国・県・市の学力調査などから

**①１学年（定期テストより）**

◇１学期期末テストの５教科平均点合計が 335.8 点、２学期中間テストでは 311.8 点、学年末テストでは 313.8 点であった。

○ 大きな上下動がなく、学年として学力が安定している。（学習習慣や授業態度が一定に保たれている。）

○ ２学期中間でやや下がったが、学年末で持ち直している。（行事の多い２学期の影響や、学年末に向けた取り組みが反映された。）

● 年間を通して「基礎力は維持できている」が、「伸び」は見られにくい。（ 本年度は、学習の質を高める工夫が必要である。）

**◇国語**（１期：77.8 点、２中：66.6 点、学末：65.9 点）

３回のテスト結果を見ると、１回目は上位層が非常に多く、学年全体が高い得点を取ることができた。２回目以降は平均点が下がり、読解の難度が上がったことで中位層が中心の分布となったが、下位層は多くなく、学年としての基礎的な読み取り力は安定している。今後は、60～79 点の中位層をどのように押し上げるかが大きな課題である。記述の型や語彙の定着を図りながら、上位層の深い読み取りも育てていけるとよい。

**◇社会**（１期：63.4 点、、２中：55.6 点、学末：60.7 点）

３回のテスト結果を見ると、２回目で平均点が大きく下がったが、学年末には再び 60 点台に戻り、学年としての学習の安定感が感じられる。特に学年末では中上位層が増え、学習内容の理解が深まっていることがうかがえる。一方で、40～59 点の中下位層が一定数おり、語句の定着や資料読み取りの力を高めることが本年度の課題である。下位層が減少していることは大きな成長であり、学年全体として着実に力をつけている様子が見られる。

**◇数学**　（１期：58.9 点、２中：56.7 点、学末：60.7 点）

３回の得点分布を見ると、平均点はほぼ横ばいで推移し、学年として安定した学力を維持していることがうかがえる。特に学年末では、80 点台を中心とした中上位層が増え、学習の積み重ねが確かな形で表れてきた。一方で、40～50 点台の「あと一歩層」が依然として多く、基礎の徹底と振り返りの質を高めることが本年度の課題である。下位層が減少していることは大きな成長であり、学年全体の学習の安定感が増していることがうかがえる。

**◇理科**　（１期：66.1 点、２中：58.0 点、学末：66.5 点）

３回のテスト結果を見ると、平均点は一度大きく下がったものの、学年末には再び高い水準に戻り、学年としての学習の安定感が感じられる。特に学年末では、85 点以上の上位層が

増え、学習内容の理解が深まっていることがうかがえる。一方で、40～59 点の中下位層が一定数おり、基礎事項の定着が本年度の課題である。下位層が減少していることは大きな成長であり、学年全体として着実に力をつけている様子がうかがえる。

**◇英語**　（１期：74.6 点、２中：67.2 点、学末：58.5 点）

３回のテスト結果を見ると、回を追うごとに平均点が下がり、特に３回目では難度の高い内容に苦戦した様子がうかがえる。一方で、60～79 点の中位層は安定しており、基礎的な文法や語彙はしっかり身についていることが見て取れる。今後は、中位層の底上げと上位層の読解力の強化が課題である。語彙の定着や文法の理解を深めながら、長文読解に取り組む力を育てていけるとよい。

**②２学年（とちぎっ子学習状況調査(4/17 実施)より）**

※太字は市平均正答率を５ﾎﾟｲﾝﾄ 以上回った数値

| | 平均正答率 | | | 観点（知識・技能） | | | 観点(思考・判断・表現) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 本校 | 市 | 県 | 本校 | 市 | 県 | 本校 | 市 | 県 |
| 国語科 | **68.4 ↗** | 61.6 | 60.6 | **68.9** | 62.9 | 60.1 | **68.1** | 60.8 | 60.6 |
| 社会科 | **60.3 ↗** | 52.8 | 50.3 | **57.8** | 50.7 | 48.2 | **65.3** | 56.9 | 54.4 |
| 数学科 | **51.7 ↗** | 46.7 | 54.2 | 58.9 | 54.0 | 52.5 | 40.9 | 35.8 | 34.1 |
| 理　科 | 52.5 ↗ | 49.5 | 46.8 | 52.6 | 50.7 | 47.9 | 52.5 | 47.6 | 45.6 |
| 英語科 | **59.4 ↗** | 51.5 | 48.2 | **61.4** | 42.9 | 42.1 | **53.3** | 42.9 | 42.1 |

○　５教科すべてで市平均を上回っており、学年全体の基礎学力が安定している。特に国語・社会・英語では思考力を問う問題にも強さを発揮した。

●　数学では基礎力が安定している一方で活用問題に課題が見られたが、今後の授業改善によってさらに伸びが期待される。

**③３学年（宇都宮市学習内容定着度調査(12/11 実施)より）**

※太字は市平均正答率を５ﾎﾟｲﾝﾄ 以上回った数値

| | 均正答率 | | 観点（知識･技能） | | 観点（思考･判断･表現） | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 本校 | 市 | 本校 | 市 | 本校 | 市 |
| 国語科 | 77.0 ↗ | 74.7 | 86.1 | 84.4 | 70.9 | 68.2 |
| 社会科 | 66.2 ↗ | 64.1 | 71.8 | 69.3 | 57.2 | 56.0 |
| 数学科 | 75.7 ↗ | 73.0 | 77.4 | 75.1 | 69.9 | 65.6 |
| 理　科 | 66.5 ↘ | 66.8 | 66.1 | 67.9 | 67.0 | 65.7 |
| 英語科 | 63.6 ↗ | 62.6 | 68.9 | 68.1 | 56.4 | 55.0 |

○　５教科中４教科で市平均を上回っており、特に国語・数学での優位性が明確である。知識・技能、思考・判断・表現の双方において、市平均との差が安定しており、学習の基礎と応用の両面がバランスよく定着していることがうかがえる。

●　理科が市平均を下回ったが、差は極めて小さく、実質的には市平均並みである。知識・技能でやや下回っているが、思考・判断・表現では市を上回っている。用語・基本知識の確認を強化することで、全体の底上げが期待できる。

（2）国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

［1年生］

○「勉強が好きですか」についての本校肯定割合 51.83%であり、市肯定割合を 10.6 ﾎﾟｲﾝﾄ上回った。

△「学校の授業がどの程度分かりますか」についての本校肯定割合は 82.9%であり、市肯定割合と同数である。

・「次の教科などの学習は好きですか」についての本校肯定割合は、市肯定割合より

○ 国語・数学・音楽・保健体育・技術･家庭・英語でそれぞれ 18.9、4.0、5.0、3.4、12.3、5.5 ﾎﾟｲﾝﾄ上回った。

● 理科・美術それぞれ 2.1、3.3 ﾎﾟｲﾝﾄ下回った。

○「平日の学習時間が 1 時間以上」についての本校割合は 75.6%であり、市割合を 7.2 ﾎﾟｲﾝﾄ上回った。

○「土・日など学校が休みの日の学習時間が 1 時間以上」についての本校割合は 75.0%であり、市割合を 10.8ﾎﾟｲﾝﾄ上回った。

1 年生は、「勉強が好き」の肯定割合が市平均を大きく上回り、学習への意欲が高い学年である。「授業が分かる」は市と同水準であり、一定の理解度は確保されている。教科別では国語・数学・音楽・保健体育・技術家庭・英語で市平均を上回り、幅広い教科で学習への好意が見られる一方、理科と美術は市平均を下回り、授業内容や活動構成の改善が求められる。家庭学習時間は平日・休日ともに市平均を大きく上回り、学習習慣が良好に定着している。総じて、学習意欲と家庭学習習慣が強みであり、「分かる授業」のさらなる充実と理科・美術の魅力化が今後の課題となる。

［2年生］

△「勉強が好きですか」についての本校肯定割合 37.3%であり、市肯定割合と同数である。

○「学校の授業がどの程度分かりますか」についての本校肯定割合は 84.7%であり、市肯定割合を 5.4 ﾎﾟｲﾝﾄ上回った。

・「次の教科などの学習は好きですか」についての本校肯定割合は、市肯定割合より

○ 社会・数学・理科・音楽・技術･家庭・英語でそれぞれ 14.7、11.3、4.6、6.8、7.8、8.1 ﾎﾟｲﾝﾄ上回った。

●保健体育で 2.5 ﾎﾟｲﾝﾄ下回った。

○「平日の学習時間が 1 時間以上」についての本校割合は 79.3%であり、市割合を 10.4ﾎﾟｲﾝﾄ上回った。

○「土・日など学校が休みの日の学習時間が 1 時間以上」についての本校割合は 78.0%であり、市割合を 15.0ﾎﾟｲﾝﾄ上回った。

2 年生は、「勉強が好き」の肯定割合は市と同水準である一方、「授業が分かる」は市平均を上回り、授業理解の高さが特徴である。教科別では社会・数学・理科・音楽・技術家庭・英語で市平均を大きく上回り、主要教科を中心に学習への関心が広く育っている。一方で、保健体育は市平均を下回り、授業内容や活動構成の改善が求められる。家庭学習時間は平日・休日ともに市平均を大きく上回り、学習習慣が非常に良好である。総じて、授業理解と家庭学習習慣が強みであり、学習意欲の向上と保健体育の魅力化が今後の課題となる。

［３年生］

○「勉強が好きですか」についての本校肯定割合 40.1%であり、市肯定割合を 3.4 ﾎﾟｲﾝﾄ上回った。

○「学校の授業がどの程度分かりますか」についての本校肯定割合は 83.8%であり、市肯定割合を 3.8 ﾎﾟｲﾝﾄ上回った。

・「次の教科などの学習は好きですか」についての本校肯定割合は、市肯定割合より

○国語・数学・技術･家庭でそれぞれ、**15.1**、**7.7**、**5.3** ﾎﾟｲﾝﾄ上回った。

●保健体育で **15.7** ﾎﾟｲﾝﾄ下回った。

△「平日の学習時間が１時間以上」についての本校割合は 93.7%であり、市割合とほぼ同数である。

△「土・日など学校が休みの日の学習時間が１時間以上」についての本校割合は 90.8%であり、市割合と同数である。

| |
|---|
| ３年生は、「勉強が好き」「授業が分かる」の両項目で市平均を上回り、学習意欲と授業理解が安定して高い学年である。教科別では国語・数学・技術･家庭で好意度が大きく市を上回り、主要教科を中心に学習への関心が高い。一方で、保健体育は市平均を大きく下回り、授業内容や活動構成の改善が求められる。家庭学習時間は平日・休日ともに市と同水準であり、学習習慣は維持されている。総じて、学習理解と主要教科の好意度が強みであり、保健体育の魅力化と学習意欲のさらなる向上が今後の課題となる。 |

（３）授業等への取組状況から

［１年生］

＊授業への取組について

○「授業の始まりには席についている」「授業に必要な学習用具は忘れずに持ってきている」「物事をいろいろな視点や立場から考えている」「授業を集中して受けている」についての本校肯定割合はそれぞれ 97.6%、95.1%、81.1%、90.2%であり、市肯定割合を 2.8、3.0、3.3、3.9ﾎﾟｲﾝﾄ上回った。

●「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している」についての本校肯定割合は 74.4%で、市肯定割合を 5.8 ﾎﾟｲﾝﾄ下回った。

| |
|---|
| 授業規律・学習準備・集中度といった学習の基盤となる行動面で非常に高い肯定割合を示しており、市肯定割合を大きく上回っている。<br>一方で、話合い活動への主体的参加のみが市平均を下回るという特徴が見られる。学習態度の土台は極めて安定しているため、今後は協働的学習の質を高めることが重点課題といえる。 |

＊学習に対する気持ちや態度について

○「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」「将来の進路や職業についての希望を持って学習している」「学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」についての本校肯定割　合はそれぞれ 78.78%、71.3%、91.5%であり、市肯定割合を **8.2**、**7.3**、**5.8** ﾎﾟｲﾝﾄ上回った。

| |
|---|
| 学習への主体性・将来意識・学習の楽しさのいずれの側面においても、市肯定割合を大きく上回っている。特に「学習が楽しいと思うことがある」は９割を超えており、学習に対する肯定的感情が非常に強い学年であると評価できる。 |

＊学習の仕方について

○「新しく習ったことは、何度もくり返して練習している」「学習した内容について、分かった点　や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」「本を利用して、学習　に関する情報を得ている」「インターネットやパソコンを利用して、学習に関する情報を得てい　る」「インターネットを活用するとき、正しいかどうかよく考えて情報を得ており、また、責任　を持って情報を発信している」についての本校肯定割合はそれぞれ 59.8%、67.1%、42.1%、89.6　%、94.5%であり、市肯定割合を 6.8、4.4、6.7、6.2、4.3ﾟｲﾝﾄ上回った。

●「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている」についての本校肯定割合はそれぞれ 70.7%であり、市肯定割合を 3.4 ﾎﾟｲﾝﾄ下回った。

学習方法に関する多くの項目で市肯定割合を上回っており、特にICT活用や情報リテラシー（情報の真偽を考える・責任ある発信）の項目で非常に高い肯定割合を示している。

一方で、ノートまとめの主体性が市平均を下回っており、学習内容の整理・可視化の面に課題が見られる。

＊家庭での学習について

○「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」「テストでまちがえた問題は、も　う一度やり直している」「家の人は、あなたの学習に関心があり、必要な注意やアドバイスをし　てくれる」についての本校肯定割合はそれぞれ 85.4%、41.5%、65.9%、75.0%、87.8%で　あり、市肯定割合を 4.5、4.4、10.3、4.8、3.9 ﾎﾟｲﾝﾄ上回った。

家庭学習に関する多くの項目で市肯定割合を上回っており、特に宿題の提出・テスト直し・家庭の学習支援の３点で高い肯定割合を示している。

一方で、「その日のうちの復習」は４割程度にとどまり、学習の即時的な定着という観点では課題が残る。家庭学習ノートでの振り返り、授業内での復習の位置づけの明確化、小さな復習課題の設定などの工夫が必要である。

［２年生］

＊授業への取組について

○「授業の始まりには席についている」「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている」についての本校肯定割合はそれぞれ 98.7%、83.3%であり、市肯定割合を 2.3、2.7 ﾎﾟｲﾝﾄ上回った。

●「先生や友だちの話を、最後まできちんと聞いている」「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している」についての本校肯定割合は 92.0%、76.7%であり、市肯定割合を 4.2、**6.1**ﾎﾟｲﾝﾄ下回った。

授業の入り方や多面的な思考といった学習の基盤となる行動で市肯定割合を上回っており、授業への基本姿勢は極めて良好である。一方で、話の聞き方と話合いへの主体的参加の２点で市肯定割合を下回っており、協働的学習の場面に課題が見られる。

＊学習に対する気持ちや態度について

○「学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「学習して身に付けた知識は、

将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」についての本校肯定割合はそれぞれ 90.0%、96.7%であり、市肯定割合を 7.3、2.3 ポイント上回っている。

学習に対する肯定的感情と学ぶことの価値の理解の両面で、市肯定割合を上回る非常に良好な傾向を示している。
特に「学習が楽しい」と感じる割合が９割に達しており、学習へのポジティブな感情が強く育っていることがうかがえる。

＊学習の仕方について

○「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている」「新しく習ったことは、何度もくり返して練習している」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」についての本校肯定割合はそれぞれ 76.0%、60.0%、68.7%であり、市肯定割合を 2.8、4.8、**7.0** ポイント上回った。

●「本を利用して、学習に関する情報を得ている」「インターネットを活用するとき、正しいかどうかよく考えて情報を得ており、また、責任を持って情報を発信している」についての本校肯定割合はそれぞれ 28.7%、89.3%であり、市肯定割合を 2.4、2.5 ポイント下回った。

ノートまとめ・反復練習・振り返りといった学習の基本的プロセスで市平均を上回っており、学習の基礎が比較的安定している。一方で、本を使った情報収集と情報モラル（正しい情報の判断・責任ある発信）の２点で市平均を下回っており、学習方法の多様性と情報活用の質に課題が見られる。

＊家庭での学習について

○「学校から、家庭学習で必要な教科書などの学習用具を持ち帰っている」「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」「テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している」についての本校肯定割合はそれぞれ 90.7%、86.0%、36.7%、62.0%、76.7%であり、市肯定割合を 4.6、4.3、2.9、7.7、9.4 ポイント上回った。

●「前の日のうちに、次の日の学校の用意をしている」についての本校肯定割合は 70.0%であり、市肯定割合を 3.3 ポイント下回った。

家庭学習の基礎となる行動（用具の持ち帰り・宿題・テスト直し）で市肯定割合を大きく上回っており、家庭学習の基本姿勢が安定している学年である。一方で、その日の復習と翌日の準備の２点に課題が見られ、学習の即時性と生活習慣の部分で改善の余地がある。

［３年生］

＊授業への取組について

○「授業を集中して受けている」についての本校肯定割合は 92.3%であり、市肯定割合を 3.4 ポイント上回った。

●「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている」についての本校肯定割合は 73.2%、78.2%であり、市肯定割合を 5.2、5.9 ポイント下回った。

授業への集中という学習の基盤となる行動で市肯定割合を上回っており、授業規律の面では非常に安定している。一方で、自分の考えを根拠を示して話す力や多面的に考える姿勢といった思考力・表現力に関わる項目で市肯定割合を下回っており、学習の深まりの部分に課題が見られる。

＊学習に対する気持ちや態度について

○「学習して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい」についての本校肯定割合は 95.3%であり、市肯定割合 2.3 ﾎﾟｲﾝﾄ上回った。

●「学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」についての本校肯定割合は 80.3%であり、市肯定割合を 4.3 ﾎﾟｲﾝﾄ下回った。

学習によって「できるようになる」ことへの喜びを非常に強く感じており、市肯定割合を上回る良好な傾向を示している。

一方で、学習そのものの楽しさ・面白さについては市肯定割合を下回っており、学習の成果は感じているものの、学習過程の楽しさには課題が残る構造が見られる。

＊学習の仕方について

○「新しく習ったことは、何度もくり返して練習している」「本を利用して、学習に関する情報を　を得ている」についての本校肯定割合は 69.0%、38.0%であり、市肯定割合を 5.1、5.5ﾎﾟｲﾝﾄ　上回った。

●「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている」についての本校肯定割合は 64.1%であり、市肯定割合を 7.3 ﾎﾟｲﾝﾄ下回った。

反復練習と本を使った情報収集の２項目で市肯定割合を上回っており、学習の基本的な取り組みが一定程度身についている。

一方で、ノートまとめは市平均を大きく下回っており、学習内容の整理・可視化の面に明確な課題が見られる。

＊家庭での学習について

○「学校から、家庭学習で必要な教科書などの学習用具を持ち帰っている」「テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している」「家の人は、あなたの学習に関心があり、必要な注意やアドバイスをしてくれる」についての本校肯定割合はそれぞれ 90.8%、78.8%、86.6%であり、市肯定割合を 3.1、5.5、4.7 ﾎﾟｲﾝﾄ上回った。

●「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」についての本校肯定割合は 79.6%であり、市肯定割合を 3.9 ﾎﾟｲﾝﾄ下回った。

家庭学習の基盤となる行動（用具の持ち帰り・テスト直し・家庭の学習支援）で市肯定割合を上回っており、家庭学習環境が比較的整っている学年である。

一方で、宿題の提出のみ市肯定割合を下回っており、学習習慣の中核となる行動に課題が見られる。

## ２　今年度の重点目標

「対話的で深い学びによる思考・判断・表現力の向上 及び
学習の基盤となる態度や学習習慣の育成」

**３　今年度の取組**（「第２次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組は文頭に★，「令和８年度指導の重点」に関する取組は文頭に□，授業における取組のうち重点は文頭に○）

**（A）授業力の向上**

授業は学力形成の中心であり、学習科学の観点からも「理解の可視化」「認知負荷の調整」「協働による思考の深化」が重要とされている。生徒が「わかった」「できた」を積み重ねる授業づくりを軸に改善を進める。

**(1) ○「わかる授業」の展開**

授業は学力向上の中心。生徒が「わかった」「できた」を積み重ねられる授業をめざす。（最新の学習科学では、学習者が「学習の構造」を理解できることが学習効果を高めるとされている。）

①　授業の流れを明確にする

・「導入」→「展開」→「まとめ」の流れを意識し、生徒が見通しをもって学べるようにする。

⇒ 見通しをもつことで、ワーキングメモリの負荷が軽減され、理解が深まる。

②　板書・資料の整理

・情報を絞り、ポイントが一目でわかるように提示する。

⇒ 情報の過多は理解を妨げるため、構造化された板書やスライドが効果的。

③　つまずきの早期発見と支援

・小テストや発問を通して理解度を把握し、必要に応じて補充指導を行う。

⇒ 形成的評価（ミニテスト・ホワイトボード・ICT クイックチェック等）を活用。

④　理由を説明できる授業

・「な　ぜそうなるのか」を自分の言葉で説明できるようにする。

⇒ 表面的理解ではなく、概念理解（コンセプトベース学習）を重視する。

**(2) ○「ねらい」と「振り返り」の徹底**

メタ認知の育成は、学力向上に直結することが研究で明らかになっている。

① 学習のねらいを共有

・今日の学習の目的を明確にし、集中して取り組めるようにする。

⇒ 目的が明確な学習は、集中力と主体性を高める。

② 振り返りの習慣化

・「で　きたこと」「課題」を短くまとめることで、学びが定着する。

⇒ 振り返りは学習の定着率を高め、自己調整学習を促す。

③ ICT を活用した振り返り

・フォーム入力やミニコメントで、全員の理解度を素早く把握できる。

④ 次時の授業改善に生かす

・振り返りの内容をもとに、授業の進め方を調整する。

⇒ データに基づく授業改善（EBPM）が可能になる。

**(3) □○「書くこと」の指導の充実**

書くことは「思考の外在化」であり、深い学びの核となる。

① 根拠を示して書く力を育てる

・「宇都宮モデル」を参考に、理由や根拠を明確にする書き方を身につける。

⇒ 根拠を示しながら書く力は、思考力・表現力の基盤である。

② ノート指導で思考を整理

・ノートを使って考えをまとめることで、理解が深まる。

⇒ ノートは“思考の軌跡”として、学習の質を高める。

③ 多様な書く活動を取り入れる

・説明・記述・要約など、教科に応じた書く活動を充実させる。

⇒ 学習指導要領が求める「言語活動の充実」に直結。

④ 書いた内容を共有し対話につなげる

・書く→話す→聞くの流れで学びを深める。

⇒ 書く→話す→聞く→書くの循環が深い学びを生む。

**(4) ★□○ 主体的・対話的で深い学びの実現**

協働的な学びは、他者の視点を取り入れることで思考が深化する。

① ペア・グループでの対話

・友達の考えに触れることで、自分の考えが広がる。

⇒ 社会的相互作用は学習効果を高める（ヴィゴツキーの ZPD）。

② 考えの比較・再構築

・他者の意見と比べながら、自分の考えを深める。

⇒ 多様な意見に触れることで、認知のゆらぎが生まれ、深い理解につながる。

③ ICT を使った協働編集

・共同スライド（Google スライド）等で、全員が参加できる学びをつくる。

⇒ 共同スライド・共同ノートは、全員参加の学びを実現。

④ 学びに向かう姿勢を育てる授業デザイン

・自分で考え、選び、学ぶ姿勢を大切にする授業をめざす。

⇒ 問いづくり・選択肢のある学習など、主体性を引き出す工夫が重要。

**(B) 基礎･基本の確実な定着**

基礎学力は「自信」と「学習意欲」の源。個別最適な学びと読書習慣が鍵となる。

**(1) ★○ 個別支援・特別支援教育の充実**

学習の多様性が広がる中、個別最適な支援は必須。

① つまずきに応じた個別支援

・プリントや ICT 教材で、必要な部分を重点的に補う。

⇒AI ドリルやプリントで、学習の穴を早期に補充

② 支援員・TT によるきめ細かな指導

・生徒が安心して学べる環境を整える。

⇒ 人的支援は、安心感と学習の継続性を高める。

③ 通級・特別支援学級との連携

・生徒の特性に応じた支援を共有し、学校全体で支える。

⇒ 合理的配慮と学習環境調整が学びの保障につながる。

④ 学習環境の調整

・座席・提示方法・支援ツールなど、学びやすい環境を整える。
⇒ 座席・提示方法・支援ツールの工夫で学習効率が向上。

**(2) 「朝読書」の充実**

読書はすべての教科の基盤となる。

① 語彙力・集中力を育てる

・毎日の読書習慣が、読解力の向上につながる。

⇒ 読書量は読解力と強く相関することが研究で示されている。

② 読書量の蓄積が学力向上に直結

・読書量が多いほど、文章理解が深まる。

⇒ PISA でも「読書習慣のある生徒は学力が高い」ことが報告されている。

③ 図書室・学級での本紹介

・読書への興味を広げる機会をつくる。

⇒ 読書へのアクセスを増やすことで読書文化が育つ。

④ 読書記録・交流の推進

・読んだ本を共有することで、読書文化が育つ。

⇒ 読書の共有は動機づけを高める。

**(C) ICT 機器の活用**

ICT は「学びを広げる」「学びを深める」「学びを支える」ためのツールとして位置づける。

**(1) ★○ 一人一台端末の効果的活用**

① 調べ学習・振り返り・意見共有

・ICT の即時性を生かし、学習の効率を高める。

⇒即時性と可視化が学習の質を高める。

② 共同編集で協働的な学び

・全員が参加できる学びを実現する。

③ 理解度に応じた学習支援

・動画や資料の再確認で、個別のペースに合わせた学習が可能。

⇒ 動画・資料の再確認は個別最適な学びに有効。

④ 授業の可視化

・板書の共有や資料配付で、学習の振り返りが容易になる。

**(2) ★○ AI ドリルの活用**

① 個別最適な学習の実現

・AI が生徒の理解度に応じて問題を自動調整する。

② 学習履歴の確認

・教員がデータをもとに支援が必要な生徒を把握できる。

③ 家庭学習にも活用

・短時間で効果的な学習が可能。

④ 基礎・基本の定着に有効

・反復練習が必要な内容に特に効果がある。

**(D) 家庭学習の習慣化**

家庭学習は「自分で学ぶ力」を育てる最も重要な要素。

**(1) 「家庭学習ノート」の指導**

① 毎日の記録で習慣化

・学習の積み重ねが見える（学習の可視化）ことで、意欲が高まり継続の力となる。

② 量より質を重視

・思考の跡が見えるノートづくりを大切にする（学力向上に直結）。

③ 教科とつながる課題を推奨

・復習・まとめ・練習を中心に、学びを深め、学習の定着を促す。

④ 教員コメントで励まし

・承認は学習意欲を高める最も効果的な要素。

**(2) ○ 実態に合わせた宿題の工夫**

① 短時間で効果のある課題

・達成感が習慣化につながる。

② ICT とプリントの組み合わせ

・個別最適な課題設定が可能。

③ 家庭状況に応じた柔軟な対応

・負担の偏りを防ぎ、学習の継続を支える。

④ 宿題の目的を明確にする

・「なぜやるのか」がわかると、取り組みやすくなり学習意欲がわく。